

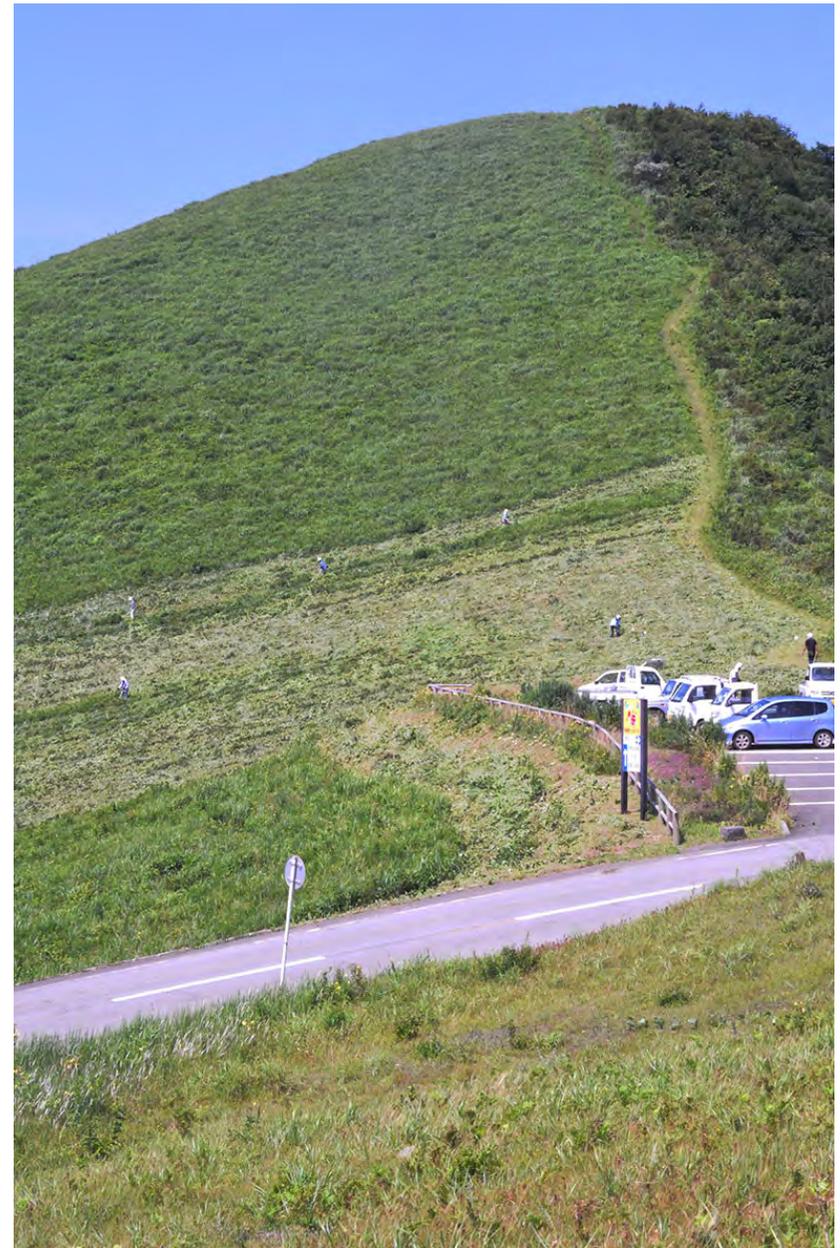
寒風山(秋田県男鹿市)の半自然草原における山焼き



現在の管理

(1) 草刈り：秋田県や男鹿市の予算，または臨時雇用対策費などにより，業者委託または個別の人員確保により刈り払い作業を実施

シバ型草原では毎年刈り払いを実施しているが，ススキ型やササ型の草原では年によって場所も面積も異なるため，数年に1度程度の頻度となる



現在の管理

(2) 山焼き(野焼き) : 2003年から男鹿市が第一火口内のススキ・ササ型草原(約45ha)と山頂南斜面のシバ型草原(約15ha)との交代で実施を計画してきた。

消防団など数百人を動員し、毎年計画するものの天候の問題などで、2003年、2004年、2008年、2014年の4回しか実施できなかった。



研究者の目から見た管理のあり方

- 草刈り**
 - ・相当のコストがかかる（現状では数百万円）
 - ・枯れ草の除去が難しい（一部しか除去できていない）
- 山焼き**
 - ・コストがあまりかからない（現状では60-100万円）
 - ・枯れ草は除去される（よく焼ければ枯れ草はほとんど無くなる）

枯れ草の存在は小型の植物の生育を阻害する



（仮説）枯れ草を取り除ける山焼きでは、高い多様性を確保できる

実証的データが必要

火入れの有無で植物群落が変わるか？

なかなか山焼きが実施されないので、データが十分に集まらない (T.T)

火入れ地と対照地(焼かないところ)における植物の数(密度)の違い

合計出現種数	栄養繁殖			種子繁殖	
	火入れ地	対照地		火入れ地	対照地
	42種	39種		21種	5種
ヒカゲスゲ	119.4	58.5	ニガナ	28.1	4.0
トダシバ	87.3	44.0	ヤマハギ	2.9	0.3
ススキ	41.6	28.0	ヨモギ	2.0	0.3
オトコヨモギ	13.0	5.0	ツリガネニンジン	0.3	0.2
ミチノクホンモンジスゲ	10.9	0.8	アキカラマツ	0.1	0.3
ワラビ	8.7	4.3	アリノトウグサ	7.1	
ヤマアワ	6.9	5.5	シラヤマギク	3.9	
ヤナギタンポポ	5.6	0.7	オトコエシ	1.1	
ミツバツチグリ	4.6	2.5	エゾノカワラマツバ	0.9	
オミナエシ	4.1	1.5	ナワシロイチゴ	0.9	
アリノトウグサ	3.6	4.3	ミツバツチグリ	0.7	
ヒメイズイ	3.4	0.3	ノコンギク	0.6	
.....
栄養繁殖合計	353.0	226.3	種子繁殖合計	51.6	5.2

栄養繁殖も種子繁殖も

火入れ地の方が密度と種数の両方とも高くなる

サンプル数:火入れ地7, 対照地6

調査区サイズ:1×1 m

焼け跡の調査:2008年火入れ地, 2014年失火跡地

おそらく, 火入れをすると多様性が高くなる

- **男鹿市**の考え

数十万円のコストをかけても13年間で4回しか野焼きができなかった

2016年以降は**野焼きを中止**する

- **秋田県**の考え

野焼きを実施してほしいが、男鹿市が実施しないなら、**中止もやむを得ない**

- **研究者(津田)**の考え

草刈りよりも**野焼きの方が低コスト**で管理できる

草刈りよりも**野焼きの方が生物多様性保全に貢献**できる

男鹿市が野焼きを実施しないなら、

研究者が中心となってボランティアで野焼きを実施する

2017年から「**山焼き実験**」を計画中 たぶん実施できることになる

「山焼き実験」が実施されたとして

現状:

小規模な実験(0.3ha)なので、草原全体の景観維持・生態系保全には遠く及ばない
研究者が研究している期間は実施可能だが、研究終了とともに山焼き実験も終了する
実験規模なら数人でも山焼きは実施できるが、規模が大きくなると人手がほしい

実施に向けて歓迎すべき情報:

秋田県自然保護課, 男鹿市観光商工課, 男鹿地区消防からは許可される見通し
十分な人手が確保できそう(ジオパークボランティア15人, 秋田県立大5人, 岐阜大2人など)

課題:

実験レベルから事業への移行(面積の拡大)
主体を研究者から地域住民へ移動
参加者の確保

広 告

山焼き実験は4月22日に実施するつもりです
見物希望者は津田研究室まで!!

おわり

